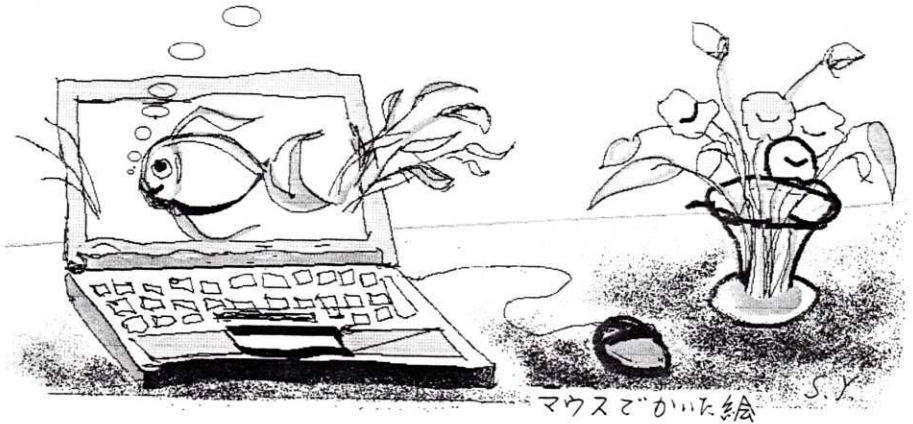




# う 羽 化 か

1999年2月  
第12号

横 浜 漢 点 字 羽 化 の 会  
〒231-0851 横浜市中区山元町2-105 Tel 045-641-1290  
発行責任者 代 表 岡 田 健 嗣  
編集責任者 宗 助 悦 子



## 目 次

|  |    |
|--|----|
| 本と私 (桜井 久美子)                                 | 1  |
| 漢点字の辞書「漢点字熟語読み方電子辞典 EIBRDIC」<br>について (木下 和久) | 3  |
| 同報通信『雑談』より (西 淳策)                            | 6  |
| 連載「点字から識字までの距離」(11) (山内 薫)                   | 9  |
| 連載マンガ「となりのシロー君」(最終回)                         | 11 |
| 教室から 一年生の詩の創作 子どもの心の成長を願って<br>(伊藤 邦博)        | 15 |
| ご報告  | 20 |
| 「点字毎日」より転載<br>漢点字への素朴な疑問 (春日 満治)             | 21 |
| 「漢点字への素朴な疑問」を読んで (岡田 健嗣)                     | 22 |
| 漢点字に関する春日、岡田両氏の論争を読んで<br>(野島 静)              | 23 |
| Where・Who・Braille                            | 23 |
| 漢点字ってどんな字? 11                                | 26 |

本号では、横浜市中央図書館 サービス課で障害者サービスの窓口をしております、桜井久美子様にご寄稿いただきました

## 本と私

桜井 久美子

自分で本を読むようになる前に、私はよく姉に読んでもらっていました。留守番をしている冬の寒い日にこたつの中で『ちいさいモモちゃん』など読んでもらうのが無上の楽しみでした。小学校に入ってから、学校の図書室で伝記物や動物記、また夏休みに課題図書を読むくらいで、外で遊んでいる方が多かったです。に思います。小学校高学年では江戸川乱歩シリーズに興味をひかれ、その頃習っていたピアノの先生のお宅へ行く電車の往復が読書タイムとなり、行きに事件が起きドキドキハラハラ、帰りは解決して溜飲が下がるという具合でした。また『赤毛のアン』シリーズも成長とともに読み進め、『アンの青春』『アンの愛情』など西洋へのあこがれとともに感情移入しておりました。

中学・高校ではいわゆる日本の文学作品であるところの、夏目漱石、芥川竜之介、太宰治あたりに心酔し、どういうわけか試験前になるといくつも借りてきては机の上に積み上げ、勉強そっこのけで読みふけり、夜遅く我にかえりあわてて試験勉強にいそむということもありました。大学生になってからは、専門分野の勉強のための読書とは別に同時代の文芸作品に興味をもち、少しでも新しいものをと「新潮」「文学界」「群像」「すばる」「海燕」などを端から手にしては読みふけておりました。今これらの雑誌に目を通すと、当時駆け出した作家がいつのまにか出世して新人賞の選考委員になっておりで、時の流れを実感します。

現在はどちらかというと、情報を得たり知識をインプットするための読書が中心となりました。情報や知識は必要ではあるけれども、心の表層部あるいは頭の片隅で扱う無機的なものに思え、もっと想像力や洞察力、思考力を培うような文学や歴史・心理学や哲学関係の読書の機会を多く持ちたいと思っております。

ところで私の勤めている図書館では、月に一度視覚障害の利用者の方へ「新着図書案内」という新しく録音図書になった本の案内や書評欄の紹介、本に関する新聞雑誌記事の紹介などのテープを発行しております。

私はつたないながらそのほんの一部の音訳に携わっており、文字になつてゐるものを音声で伝えるのは考えていた以上に容易ではないということです。音訳の世界では、視覚障害者も含めてこれまで関わつてきた方たちの試行錯誤によつて技術が生み出され、それが伝授されてはいますが、一朝一夕に体得できるものではなく、難しさを痛感しております。また、目の前に文章があつたとき、その意図するところ、つまり文字や言葉にする以前の「思想」のようなものをキャッチしていないといくら音声化したところで伝えるだけの説得力がないものになつてしまふということを実感しております。さらにつぎのような発見もあります。例えば「あ」という文字が“あ”と発音するということがあたりまえすぎて、視覚上の文字と音声上の言葉が同時発生的に存在しているように思えていたけれど、実はそうではなく、文字のほうがあとから一つずつあてはめられたものなのだ、ということに今更ながら認識させられたりしています。子どもが言葉と文字を覚える過程を考えても、りんごの「り」、みかんの「み」などあらかじめ音で認識している言葉をひとつひとつ文字に置き換えて学習しており、そうして覚えた文字を音にフィードバックして認識を深めています。恐らく、言

葉と文字、言い換えれば音声上のものと視覚上のものは相互に作用しあつて存在しているのだと思います。

以上、私の読書体験や仕事上の発見、再認識などを述べてきました。さて、図書館で働いていると「静かで、本がたくさん読めていいですね。」という感想を持たれる方が多いようですが、昨今の公共図書館は利用が非常に多く、平日は半日、土日はほぼ一日中カウンターに出て、新規登録者への説明、レファレンス、予約の受け付け、地下書庫からの本の取り出し、返却本の処理に忙殺され、おっとり型の私もかなり早口になつていきます。文字通り“返却本の山”（休み明けは私の身長より高くなります。）に遭遇すると目の前にあるのが本だという意識がなくなり、すっかり食傷気味で大量消費の社会のしくみに取り込まれています。それでいて書店にいくと命の通つた本たちが並んでいてアレもコレもと買つてしまいます。少々話が並んでいますが、縁あつて図書館で働くことになつたので、今まで読書を含めいろいろな出会いの中で吸収してきたことを社会に役立てられるよう、また今後の読書や思考の蓄積が有意義なものとなるよう、日々精進していきたいと思ひます。





# 漢点字の辞書「漢点字熟語読み方電子辞典 EIBRDIC」について

会員 木下 和久

これから漢点字を勉強しようとする場合、あるいは一応漢点字は読めるけれど、見慣れない漢点字に出会った場合に、それをどう読むかということが簡単にわかったらとても便利ではないでしょうか。横浜漢点字羽化の会が2年前に制作し、横浜中央図書館に納めた漢字源は、膨大な漢点字の辞書です。しかし、これは内容自体が漢点字で書かれていて、漢点字が読めない、あるいは読みに慣れておられない方にはちよつと難しい辞書です。もつと素朴な、便利な辞書があったら、と感じておられる方もいることでしょう。

実は、このような漢字の熟語の読みを簡単に引くことができる辞書が、すでに作られていたのです。これは漢点字を両手の8本の指で点字入力することによって、墨字の漢字に変換し、それをコンピュータで検索するように作られたものです。ここに登録された漢字熟語はすでに14万語を越える膨大なものになっています。漢字熟語の登録は、本会代表の岡田さんが長年にわたって努力された成果です。またそのデータを検

索するソフトも既に開発されていました。しかし、残念ながらそのソフトは、使用される方に何万円もするプログラムを購入していただくことが必要でした。そこで、そのようなソフトに頼らないで羽化の会自体で開発したソフトによって本来の目的を達成できたらいいのだが、という岡田さんの希望に添うよう、私が漢点字熟語検索用の独自のプログラムを開発しました。そして、皆さんに自由にご利用いただけるようになりました。

このような構想は、ずいぶん前からあったのですが、漢点字変換用のソフト開発で今まで手が回らなかったものです。ここにきてようやく漢点字変換の方も落ちていて、ソフト開発の余裕ができてきました。今までの経験が役に立って、この仕事は比較的簡単に進行しました。そして、点字をリアルタイムで表示するピンディスプレイの扱い方にも慣れたので、新しいシステムでは検索した内容をそのままピンディスプレイに表示することができます。これはこのソフトを使う人にとって、かなり便利なものだと思います。ただ、ピンディスプレイは1台40万円以上もする非常に高価なものなので、どなたにも個人で備えていただくというのは無理なことかもしれません。そのような場合には、公共施設のものを利用したり、公的な補助金を利用し

て個人の負担を減らすような工夫も可能かもしれませんが、

さて、前置きが長くなってしまいました。このソフトの具体的な使い方をご紹介しましょう。何しろ、14万語以上ものデータを含むもので、十分な空きスペースを持ったハードディスクが必要で、最低15メガバイト、できれば20メガバイトぐらいの空きスペースがあると安心です。パソコンの機種は、今のところNECのPC98シリーズを、MS・DOSで動かしている環境でないと対応しません。

システムに必要なプログラムとデータのファイルは、圧縮されて2枚のフロッピーディスクに収められています。インストールプログラムが1枚目のフロッピーにあるので、それをフロッピードライブに入れてそのディレクトリをカレントにし（たとえばフロッピーを入れるディレクトリがC…の場合はC…リターンとキー入力します）、その下CBINSTRリターン とすると、後は全部自動的にシステムのインストールが進行します。途中で2枚目のフロッピーを入れるように指示が出ます。このインストールプログラムによると、後でプログラム立ち上げが簡単にできるようにA…辛（ルートディレクトリ）にCB.BATというバッチファイルを作るようにしています。これがあると、どのディレク

トリにいてもCBリターン と打つだけでEIBRD IC電子辞書システムが立ち上がりります。

最初に表示されるメニューは、「1. 読みから引く」と、「2. 漢字から引く」の2つしかありません。終了はESCキーです。どちらも点字入力と文字入力が可能です。最初は点字入力になっています。それは1または2を選んだ場合に入力を促す文字列の中に（テンジ）または（モジ）の表示があるのでわかります。点字入力から文字入力に切り替えるのはf・5（ファンクションキーの5）キーです。このキーを押すたびに点字と文字が交互に切り替わります。使用できるピンディスプレイは、ブレイルノートの40Aと46Cで、これも同様にf・6（ファンクション6）のキーで交互に切り替えられます。点字入力の場合のキーの割り当ては、以下のようです。

- 1の点… f、 2の点… d、 3の点… s
- 4の点… j、 5の点… k、 6の点… l

漢点字の始点(0の点)…NER  
漢点字の終点(7の点)…スペース

これらのキーは、大文字、小文字どちらでも受け付けられます。また、いくつかの点字を入力してから間違いに気づいて修正する場合は、1字修正は←（ll、BS、aも使えます）、全部の修正はDELまたはC

です。入力終了はリターンキーが標準ですが、Y、N、Hキーも使えます。

検索は、入力された文字列と同じものを最初から含む文字列が見つかったら、それが表示されます。それがない場合は、「見つかりません」という表示が出て、小さくブザーが鳴ります。表示される文字列は、入力されたキーとなる語と、それに対応する漢字または読みです。これらは同時にピンディスプレイにも表示されます。これらの文字列が長いと、ピンディスプレイには全部が表示できないので、もつと右の隠れた部分を読みたいときは→を押します。そうすると、目的とする漢字または読みが頭から表示されます。

一旦検索結果が表示されると、そのあとには↓（またはリターン、N）で次に登録されている語を表示し、↑（または+、Y）でその前に登録されている語を示します。

表示を終わり、新たにキーとなる文字列を入力するには、←（またはH、II）を押します。

以上でこの電子辞書の使い方の説明は終わりです。ちよつと物足りないくらいですね。つまり、それだけ簡単に使えるということです。でも、これが自由に使えると、漢点字を読むのに強力な助っ人が現れたとお感じになれるのではないでしょう。

## EIBRDIC 漢点字熟語読み方電子辞典

- ☆ 横浜漢点字羽化の会がお送りする、漢点字読書に必須の電子辞典
- ☆ 現在14万7千語収録。
- ☆ NEC98シリーズのMS-DOS上で動作。
- ☆ キーボードから熟語の漢点字を直接入力、あるいはFEPによる文字入力すると、その読みが即座に検索されます。
- ☆ 反対に、読みを点字入力、あるいは半角かな入力すると、熟語の漢字の検索。
- ☆ 検索文字とその結果が、画面に墨字と漢点字符号で、点字ディスプレイに漢点字とかな点字で表示。
- ☆ 漢字の熟語の読みがお分かりになりましたら、お手持ちの国語辞典などで、その意味をお調べ下さい。
- ☆ フロッピー・ディスク3枚、および使用マニュアル添付。
- ☆ ご使用のハードディスクに、20メガバイト程度の空き容量が必要です。
- ☆ 価格 個人 6,000円  
本会の漢点字出版物のご利用者 4,000円  
視覚障害者、ボランティア等の任意団体 20,000円  
公共団体 30,000円

**'99年4月1日配布開始予定。ご予約下さい。**

- ★ "EIBRDIC" は、本会の開発したソフトの名称です。
- ★ 本プログラム並びにデータの著作権は、横浜漢点字羽化の会に帰属します。
- ★ 本プログラム並びにデータの無断複製、流用、転用、改竄は、固くお断りします。



随分と「雑談」をご無沙汰してしまいました。会員の中には「奇特なことに拙談？」を期待されている向きもあるらしいので、そもそも根が単純なそれがし、お世辞のついでついでその気になり、本年最後に埋め合わせをしようという魂胆です。

例によつてちよつと長めになりそうですから、もし読まれる方は、年明けにおトソでもきこし召しながら、覗かれるのを为您推荐いたします。

### ☆エジプト雑感—ラマダン篇

さて、この一年を振り返ってみると、年初エジプト旅行から帰って直ぐ簡単にメールでご報告したのを、そして元旦にはピラミッドを初詣したことに触れていたのをご記憶の方もおられるかと思ひます。

ついこの間、アメリカのイラク空爆の際、ラマダンが問題になっていたようですが、私共がエジプトを訪れた時も、丁度ラマダンにぶつかり、ちよつと変わった経験をしました。一ヶ月つづくラマダンはその間飲食しないといつても、午後5時には、解禁となり、皆

一斉に食事を始めます。我々非イスラム外国人は本来関係ないのですが、その間店が閉まつてしまい弱ります。しかしそこはそれでエジプトには数パーセントのキリスト教信者もいて、その人達のために一部レストランが営業していてなんとかなります。

午後5時近くなると、街のレストランでは食事の用意がされ、外の舗道までテーブルが出され、早々と人々が席に着き今か今かと待ちます。何しろ朝から飲まず食わずなんですから。5時きつかりに花火の音がし、拡声器からコーランが流れ、それが終わる頃、一斉に食事が始まります。料理を注文した私どもも人々がおあずけになっているのに手をつけるわけにもゆかず、郷に従う羽目になったものです。

旅の情報を得ようとカイロ市内のインフォーメーションの人と親しくなり、市内イスラム地区を案内するから3時頃だったか、オフィスを覗いてくれと云うことで、再び訪れました。早くも仕事は引き上げ、一緒に現地に向かつているんな場所を案内してくれた末、ご本人の家まで連れてゆかれたのです。ラマダンの期間は5時の食事のためでしょう、銀行を含めて早く閉まるのです。親子三人のイスラムの家族で、ここでもその時刻に合図のコーランの後、食事となります。イスラム家庭の雰囲気に出会えて面白い経験をすること

ができました。この日は大晦日で翌元日はピラミッド見物となりました。

市内を走るタクシーの運転手も朝から飲食抜きですから、5時近くになると、気が立って運転がランボーになるので、お薦めできないとのことでした。それだけでなくカイロ市内は信号はあっても全く無視され、青信号でも車は止まりません。従って道路を横断するのは車の流れの切れ目を狙うのですが、躊躇していたら何時までたっても、渡れません。強引にタイミングを合わせて、突進するのです。この勢いに車の方が速度を緩めてスチール成功です。最初は恐ろしくなにか決行できませんでしたが、その内慣れてくるものです。ですが、だいぶたつた今ではその自信はありません。

先日、エジプト政府の要請で日本の政府が当地旅行の規制が緩和されたと聞きました。当時はルクソール事件の直後でしたから、観光客が少なく、費用も格安に済みました。これは年始に報告した通りです。

なんか中途半端な文章になってしまいました。時刻はもう大晦日に入ってしまったので、(実は暖房の過電流で停電となり泣く泣く再入力という馬鹿をやってしまった。あゝ)この辺で今回は区切ることにしましょう。年が明けてから続編でもと思ってい

ますが、私故にどうなることやら、期待せずに(誰も期待していると云ってない?)お待ち下さい。遅きに失して恐縮ながら、更にアイルランド篇、獅子流星群とやらまだ話の種はありそうです。

ではよいお年を。(乱筆、いや乱打御無礼!)

98・12・31記

## ☆「雑談」ラマダン続編

暮れにお届けした「雑談」を打ち込んでいた頃、実は家内は日本に帰る上の空、いや空の上だったのです。翌大晦日に無事わが家に帰着してホッとしたものです。旅行先がイエメンで、日本ではあまり報道されませんでした。旅行中に外国人がゲリラに誘拐され殺されたこと、本人達(上の娘と一緒に)が經由地のロンドンで知り、心配しないようにと家に電話があつてのことでした。20人位の旅行者が誘拐されての銃撃戦に巻き込まれて、アメリカ人一人とイギリス人二人が殺されたとのことで、詳しくはわかりません。

砂漠越えの現地ツアーで、本人達も帰国の日が迫りやむなく、砂漠の手前まで引き返したのですが、どうやら事件の日を考えると、その先を行った連中がやられたらしいのです。何台かの車を連れ、銃を持つ



た警備員も同乗していたとのことです。これまでは誘拐されても待遇はよく、勿論殺されるようなことはなかったとか。アラブのこの国はいくつかの部族から成り立っているのです、一つの政府で統制されているわけではなく、明治維新直前の日本を思わせるものがあるといえるようです。部族によって考え方もそれぞれ違っているわけです。ちょうど米英のイラク爆撃の最中であり、イエメンは親イラクなので、米英人がやられたのは、そのせいではないかとの観測もありました。日本人がいたらどうだったのかな？もし時間があつたら行きたかったとのことで、いずれにせよ運がよかつたと云えるでしょう、ほんとに。現地ではアメリカに對する非難の聲が数多く聞かされ、経済封鎖によってイラクの内情は、かなりひどく、それに耐えられず数多くの難民が友好国イエメンに流れ込んでいますそのイラク人の一人から直接耳にしたとのことです。これであるのはフセインではなく、結局は人々だとの深刻な訴えを聞かされたそうです。

さて、家内が帰って真っ先におやつと気が付いたのは、かなり体形がスリムになっていることでした。計ってみると4kg体重が減っていたのです。僅か半月のことですが、例のラマダンのおかげでした。前にご紹介

介したエジプトの場合は、旅行者には殆ど影響はありませんでしたが、ここは観光国ではない故でしょう、当地での上級クラスのホテル以外は朝食もとれず、昼食も食べられなかつたとのこと。日の出(4時)から日没(6時)まで飲食無しです。パンなど前日から用意していても、周りの現地の人に見ている前では手が付けられなかつたようです。ここでもエジプト同様、タクシーに乗ると4時頃から運転手はいらいらしておつかなかつたと云つてます。同じラマダンと云つても地域によってだいぶ違うようです。

で、本人は思わぬ効果にたいへん感激しているようですから、減量希望の方はラマダンを狙つての旅行をお勧めする次第です。ましてやゲリラにあつたらもつと痩せることができるかも？

こうしてギリギリ現家族が揃つて、めでたくも新年を迎えることができました。お正月とてご馳走にも恵まれて、本人は体調？恢復の兆しはあるようですが、それ以来ヘルスメーターの上のつた気配はないようです。私もそれに取って触れないのが無難かなと目をつぶることにしております。

99・1・23記



## 点字から識字までの距離（十一）

山内薫（墨田区立緑図書館）

昨年十二月、図書館の利用者が何枚かの年賀状を持って来館した。その人は五十代で失明し、昨年の四月から所沢のリハビリテーションセンターの寮に入つて、三療（按摩・鍼灸・マッサージ）の資格を取るために勉強している人で、休みの間は地元の墨田に帰ってくる。彼は所沢と一緒に勉強している仲間宛てに年賀状を書き、郵便局に持っていったのだが、宛名が点字だけだったので、受け取ってもらえなかつたという。そこで、早速郵便番号簿を出してきて点字の間にボールペンで住所を記入していった。以前寺島図書館にいたときに郵便局の職員が図書館を訪ねてきて、宛名の点字を読んで欲しいと言われたことがあるが、地元の点字グループの人が何回か郵便局で点字の講習をしたと聞いていたので、それ以後そうしたケースには出会わないでいた。利用者の要望で郵便物の宛名書きをする事は年に何回かあり、図書館ではこうしたサービスを墨字訳サービスと呼んで、宛名書きの他、通知物の回答、原稿の清書、会の式次第や資料などを、手書きあるいはワープロを使って作成している。また、

点字の手紙をもらったのだけれども点字を読めないの  
で図書館で読んで欲しいと持ち込まれたケースもある。  
つまりこの墨字訳サービスというのは点字使用者や視  
覚障害者のためのサービスと言うだけでなく、点字を  
読めない人のためのサービスでもあるわけで、点字と  
いう文字を媒介としたすべての人への情報提供サービ  
スであり、情報の送り手と受け手の間に図書館が介在  
して情報の伝達を保障するサービスと言うこともでき  
る。

ところで一九八三年に近畿郵政局管内では点字の宛  
名書きを認める通達を出しているのに、東京では未だ  
にそれが認められていないということが今回の事例で  
分かつた訳だが、こうした問題を言うときに「点字の  
市民権」という言葉が使われている。これは社会的に  
点字がどの程度認知され、公的に認められているかと  
いう問題、例えばこの「羽化第七号」に岡田さんが寄  
稿していた点字投票など、点字が市民権を得ている分  
野や部分を表す言葉として使われている。例えば点字  
投票の歴史は古く、日本で初めて点字投票が行われた  
のは一九一三年（大正二年）にまで遡り、岡山市議会  
議員選挙で実施されたのが初めといわれている。その  
後一九二三年（大正十二年）に盲人点字投票有効規正  
同盟が結成され、一九二五年（大正十四年）に貴族



院・衆議院で点字投票有効請願が採択となり点字投票が認められた。一九二八年（昭和三年）の衆議院議員選挙で点字投票が実施され、その時の点字投票数は五四二八票だった。（現在でも点字投票数はおよそ一万余だという。またこの時の選挙は普通選挙法による初の普通選挙だったが、有権者は二五歳以上の男子であり、貧困のために公私の扶助を受けている者や女性には選挙権が認められていなかった。）

こうした点字の市民権に係わる主なものを年代順で辿ってみると、

一九四九年（昭二四）同志社大学で初めて点字受験が行われる

一九六二年（昭三七）全国で初めて和歌山市が点字の市政便りを発行（これは前年に点字郵便物の郵送料が無料になったことと係わりがあると  
思われる）

一九六九年（昭四四）地方自治法が改正されて点字署名が有効となる

一九七一年（昭四六）点字による初の教員採用試験が行われ点字受験者が合格する

一九七三年（昭四八）司法試験の点字受験が認められる

一九七四年（昭四九）東京都で点字による一般行政試

験（全国初）が実施され二名が合格  
一九八九年（昭六四）横浜市議会で点字による陳情・請願が受理される

一九九一年（平三）国家公務員行政職第一種・第二種採用試験で初の点字受験実施

一九九二年（平四）点字図書給付事業がはじまり、点字図書を原本の墨字本の価格で購入できるようになる（価格差補償制度）

点字の内容証明が認可される  
一九九三年（平五）「点文字母健康手帳」が交付される


一九九五年（平七）国勢調査で点字と大活字の調査票を配布

一九九六年（平八）国家公務員第二種試験で点字受験者が初めて合格

こうしてみると、例えば今でも点字受験を認めていない大学の方が圧倒的に多かったり、この連載の第一回で紹介した自治体からの通知物や提出書類に関するアンケート結果を見ても、まだまだ点字の市民権が確立しているなどとはとても言えない状態であることがお分かり頂けると思う。果たして近畿郵政局管内では漢点字による宛名でも受け付けてくれるのだろうか。そして遅れずに配送してもらえるのだろうか。

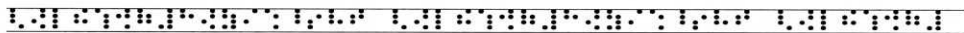


# となりのツロ-君 (11)最終回

「め」が「目」になる時 







8点式漢点字の考案者  
川上泰一先生

たいいち

日ほ...  
月ほ...  
やりくり  
あれ

いーや  
部首の  
形が似て  
いる  
僕だよ

ひは  
オレだろ

みは  
私よ

進

火

耳

水

水は  
か  
に

水

縦線、左に上斜めかぎ  
右に上から左斜め線  
つづけて右斜め線

風邪に  
注意!

人

人は  
だ  
な

人

左右の斜め線、左が長く  
中程から右斜め線が出る

考える

女

女は  
だ  
ね  
ふ

女

くの字、下に交差するノ  
上に交差する横線

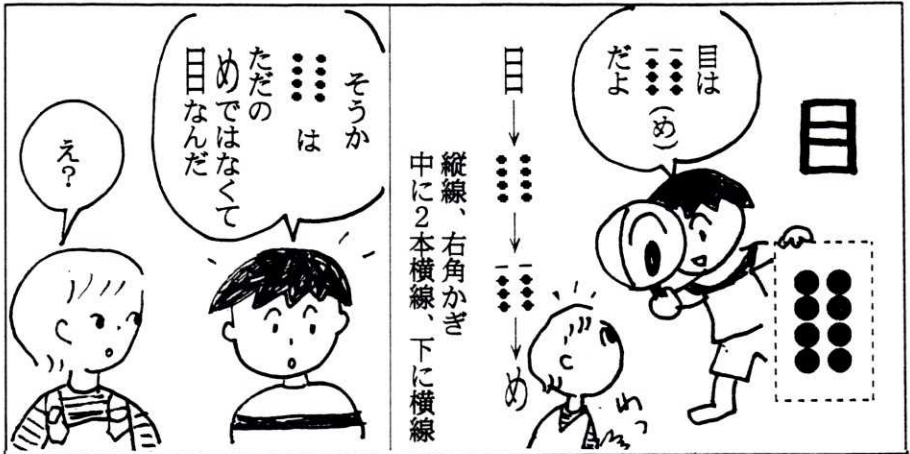
一マスの漢点字は  
部首にもなること  
を思い出してね

ニンベン  
になるし

サンスイよ  
形がちよつと  
似てるかな?

人





教室から

一年生の詩の創作 子どもの心の成長を願って

小学校教師 伊藤 邦博

いささか品に欠ける子どもの作品ですが、傑作です。

無題／宮川<sup>みやかわ</sup> 七重<sup>ななえ</sup>

おにいちゃんに おしえてもらった

げげのきたろう かいぞうへん

♪げ げ げげのげ

トイレの なかから おとがする

かみがたい かみがたい

おてで ふいちゃった。

ちよっぴり なめてみた

げっ！

あほがそろったこのクラス

ちんちん だすのは やろうども

おしりを だすのは このわたし

思わず笑ってしまいましたか。自然に出てくるリズム感、絶対に子どもにしかいえない言葉で。子どもは天性の詩人であることを如実に語っていると思いませんか。

一年一組での文を綴る活動は、「お話し してね」と児童の話聞き取ることから始め、「せんせい あかね」と話したことを書くことへ進めていくことにしました。おしゃべりを十分に楽しむことが、文章表現をすることへの意欲につながるからです。子どもたちは先生に教えてあげたいこと、話したいことをいっぱい持っています。一年生を担当した教師は、この時期子どもたちのお喋りをいっぱい楽しみます。

清音の指導を終えた五月末から、「文の落書き帖」と名づけたノートを持たせて、書く活動を開始しました。この段階での指導のねらいは『嘘ではなく、正直であれば何を書いてもよい』ということです。

入学して学校生活のリズムになれたころ、子どもたちは良い悪いを問わず、それぞれの個性を発揮してきます。宮川さんは言語感覚の優れた子ですが、枠はまらない自由人で、優等生タイプとは正反対に位置する子です。いつも自分の思いの丈を言葉や身体で思う存分表現し、クラスに笑いを振りまいていました。

ある日、私といつもの様にお喋りをしていた時、突然「先生、この歌知ってる。」といい冒頭の「げげの鬼太郎改造編」を歌いはじめました。私はこれを聞いて笑い転げてしまいました。

「ねえ、七ちゃん、その歌皆の前で歌ってよ。」とい

うと、洋式トイレにすわり、トイレットペーパーをとろうとする仕草をするのですが誰かが使いきったあと、呆然とした表情をし、ついにはお尻に手をまわし、手で拭き、最後にはなめてしまうというジェスチャーをつけながら、黒板の前で歌いながら踊り出しました。ご丁寧パンツまで脱いで。これにはクラス全員大喜び。アンコールに応えて二回目をやるときには、お調子者の数人の男子が出てきて一緒に踊りはじめました。教室の中は大騒ぎとなりました。

「ねえ、七ちゃん、今の替え歌を文の落書き帖に書いてよ。」と頼んで書いてもらったのがこの作品です。一方お調子者の男の子達は、この一件以来ちよつとしたことで、すぐにおちんちんを出して喜ぶようになってしまいました。及川くんなどは帰りの会を終え、さよならの挨拶がすむや私のところにきて「先生チンコ握手しよう。」と言い出す始末、そうした背景から次のような楽しい作品が生まれました。

おかしいな／及川

おいかわ たかひろ  
貴広

ぼく一年生

チンコを出すようになったんだ  
それなのにおかしいな

前はチンコをださなかつたのに  
今じゃ皆をおどかしている。

一学期はとにかく書くことを好きになってほしいと願いながら指導を続けていきました。毎日毎日子どもたちの書く『文の落書き帖』を読み、誉め、励ましていきました。子どもたちは少しづつ自分らしい文を書くようになっていきました。

二学期になって『文の落書き帳』を『あのね帖』とあらため、感動をこそ書かせる指導に切り替えていきました。形容詞に注目させながら自分で題材を探し、文を綴らせていきました。面白かった、嬉しかった、楽しかった、悲しかった、怖かった、はらたつた、優しいなど形容詞は感動表現を表す言葉であり、感動をこそ書くのが詩であるからです。

『あのね帖』の書き方について指導をした日に菅さんはわたしの指導のねらいを見事に言い当てた作品を綴ってくれました。

あのねちようの書き方／菅

すが えりこ  
江里子

みたこと、かんじたこと、きいたことを かくんだよね。



たのしいぶんを いっぱい かいりたり みじかい  
ぶんを たくさん かくだね。

たのしいこと かなしいこと いっぱいあるよ。

たのしいときは うんがいい

かなしいとき うんが わるい

たのしい じぶんを いっぱいかくこと。

これからも がんばって やる。

日々の暮らしを好奇心をもつて見つめ、心が動いた事を形容詞を使って切り取りながら見つめ、それを書かせたいと考えたからです。ただし形容詞を「○○をしたから（だったから）おもしろかった。」などというように使わないで、詳しく様子を書くことで感動を書き表すようにすこしづつ軌道修正させていきました。一年生にしか書けない詩がたくさん生まれてきました。

### えんそく／高橋 勇太

あすは えんそくです

ぼくはかんがえてる。

「よるが はやく おわんないかな。」  
と かんがえている。」

### くも／久代 敬祐

なんで くもが そらに うかぶのかな。

はねも ないのに

にんげんが ふうせんみたいにな

ふくらませて うくのかなって おもった。

いっしょけんめい わたを あつめてうかんだ  
んだんろう。

そして一〇月下旬からは『みつつけた帳』とタイトルを変えました。ほとんどの子どもたちが自分で書く素材を見つけられるようになりました。次の段階の、詩に不可欠な発見的要素を盛り込んでいく指導を展開する時期がやってきました。

児童詩は感動（不快なことも感動である）を見つけて、先生を読み手として、その子なりの言葉で表現していくものです。これまで指導してきた形容詞に注目して感動を見つけそれを見つめることで、今まで気づけなかった新しいその子なりの発見をさせ、それを綴らせたい、そんなねらいをこめて『みつつけた帳』という名前に変更しました。

そこから生まれたのが次の三つの作品です。

水ひやし／小林拓也

きょう よる パパは  
ぼくに

「ほった ふくれてるね。」  
と いった。

パパは 「ひやした ほが いいよ。」と いった

パパは れいぞうこに はいった 水を

ぼくの ほったに つけようとした。

ぼくは 「いいよ。」と いった。

パパは じぶんの おなかに つけた。

パパは 「パパのおなかは つかいぞ。」と いった

小林君はパパのウィットに富んだ感性と子ども心を発  
見し、それに感動しました。

うめぼし／田中勝嗣

きのうの よるごはんの とき、  
あかい おおきい うめぼしを たべた。

ばあちゃんが つくった うめぼしだ。  
ちよつと たべてみた。

「すっぱー、もう いらない。」

ぼくは のこして しまった。

でも おかあさんも きらい。

おおきい びんに たくさんうめぼしが ある。

ぜんぶ おとうさんが たべるんだ。

ぼくとお母さんはすっぱい梅干は嫌いだから仲間だ  
ぞ。父さん一人ではあちゃんの作ったすっぱー梅干を  
たべてね。そうしないとばあちゃんに悪いじゃない。  
すごい発見ですよ。家族の愛情がしみじみと伝わっ  
てきます。

じやまな そうぶせん みつつけた／野原舞

おさんぼのとき

いつでも 五じまで いるよ。

そのわけは 大ちゃんが

かもつれっしやを 見たいから。

きのう 見たたら かもつれっしやが きた。

そうしたら そうぶせんが きて

かもつれっしやを かくしちやつた。  
大ちゃんが

「ああ。」と いった。

でも そうぶせんが いったからも

かもつれっしやが みえたんだよ。

大ちゃん よかつたね。

野原さんは二歳の弟の大ちゃんを喜ばせようと土手に出かけます。大ちゃんの好きな貨物列車を見せてあげようと。ところが貨物列車が通りかかったその時、その前を総武線の電車が通り、貨物列車を遮ってしまいます。総武線、邪魔だよ。大ちゃんに見せてあげてよ、大ちゃんを喜ばせたいという思いが邪魔な総武線という発見をさせました。

最後に私が今のクラスの子どもの作品ではじめて涙した作品に触れておきます。

## けんか／江川 智洋

きょう みんなと あそんで いるとき

けんかに なりました。

みんなが いやな ことを ぼくに いったんだ。

ぼくは ないて しまいました。  
すごく やな きもち でした。

ぼくが まえに いじめた ひとたちも

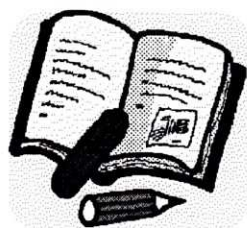
やな かんじ だったろうな。

いじめて ごめん。

この詩を書いた江川君は入学以来不安定な心を抱えていて、わざと人の傷つくことをいったり暴力を振るう子でした。一学期最も厳しくしかった子の一人です。しかし詩を書きつづける中で自分を見つめられるのです。自分を吟味できるのです。彼はこれ以後暴力は振るわないし、人を傷つける言動はしなくなったばかりか、友達と打ち解けて仲良く交わるようになりました。

私が詩を綴らせるのは子どもたちを詩人にするためではありません。子どもの心の成長を促し、自由にも

のごとを考え、自分の考えを持った、人の心の痛みのわかる優しい人に成長していつてほしいからです。詩は子どもを確実に成長させる、私はそう考えています。





【新年会が開かれました】

恒例となりました新年会が去る、一月二四日（日）にホテルリッヂ横浜『力車』にて行われました。

今年は、漢点字の利用者であられます栃木県立直学校の小池上博先生を初め、才川美千子様、中野ナミ子様にご参加頂き、会員との交流を持つことが出来ました。

新年会の後に、横浜市社会福祉協議会にて新しく出来たEIBRDICのデモを行いました。今後も、横浜市社協において、EIBRK及びEIBRDIC・点字プリンターのデモ等を行いたいと思っておりますので、ご希望の方はお申し出下さい。

会員の他に、以下の方々にご参集頂きました。  
この場を借りて御礼申し上げます。

横浜市社会福祉協議会ボランティアセンター 滝口朝子様、小  
学校教諭 伊藤邦博様、小池上照子様、墨田区立緑図書館 山内  
薫様、点訳ひかり会 斎藤寿美子様



【テレビ神奈川の取材がありました】

テレビ神奈川より取材の申し込みがあり、新年会終了後、取材を受けました。残念ながら、本誌発行の間に合わず、放映日をお知らせすることが出来ませんので、ご報告のみとさせていただきます。



本誌第10号で転載いたしました6点漢字と漢点字について、春日氏原稿が再び点字毎日の【論壇】に掲載されました。本会の岡田もそれに対して再度投稿致しました。この2つの原稿に対する鳥取県の野島静様から頂いたお便りと共にここに転載致します。

皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。

『点字毎日々活字版』98年12月24日号より

【論壇】漢点字への素朴な疑問

東京都・元盲学校教員 春日 満治 氏

10月29日号の「点字の漢字は漢点字」と題する岡田健嗣氏の反論にお答えしたい。

かつて本欄に漢点字が読みにくいのは小学部から6点にならされたからだ、とする意見が寄せられたことがあった。漢点字の読みにくさを率直に認められたものだが、たとえ、小学部から8点を押しつけたとしても、とうてい無理だろうと思った。ブライユの偉大さはアルファベットのしがらみを捨て、触読文字としての6点の配列を創案したところにある。上・中・下、2列の6点は、その相対関係で、点の位置がよく分かるようになってきている。6点の単位が触読に適していることは、長い歴史で証明されている。漢点字を読む際、漢字符を確認し、次いでそれを意識から外さないと点の位置関係を確実にとはとらえられないと思う。同じことは書く場合にも言える。8点の点字板があっても1・2・4・5の点を書きにくい。それは50音書きなどで容易に証明できるはずだ。

しかし、私の漢点字についての疑問はもっと本質的なところにある。便宜上、ここでは漢点字を⠠⠠⠠⠠の形で示すことにする。漢点字では草木の「木」は⠠⠠⠠⠠、子供の「子」は⠠⠠⠠⠠、さらに「心」は、⠠⠠⠠⠠となるが、いずれも元の漢字と無関係である。よく6点漢字は音訓符号で、漢点字は漢字そのものを表しているというが、単に点字を組み合わせたものを漢字に対応させたに過ぎない。「漢字の構成を生かして」と言われるが「空」は「穴」の⠠⠠⠠⠠の下に、工作の「工」で⠠⠠⠠⠠がくる字だが、⠠⠠⠠⠠⠠⠠ではなく、⠠⠠⠠⠠⠠⠠である。2マスという枠があるにせよ、これは中国王朝の一つ「宋」の字になるのではないか。

「覚」は⠠⠠⠠⠠⠠⠠、「榮」は⠠⠠⠠⠠⠠⠠であるが、同じかんむり下に⠠⠠⠠⠠のくる「学」は、⠠⠠⠠⠠⠠⠠ではなく⠠⠠⠠⠠⠠⠠1マスである。医者「者」は⠠⠠⠠⠠⠠⠠と2マスだが、その右につくりのおおぎとのつく「都」は、⠠⠠⠠⠠⠠⠠と、なぜか1マスになり、訳が分からない。それなりの説明はあるのだろうが、結局は1字1字、丸暗記するしかあるまい。

どうして、そんなにしてまで漢字の組み立てにこだわらなければならないのか。ブライユ以前の発想ではないか。漢点字労多くして効はあまりに少ないと私は素朴に思う。

【横浜漢点字羽化の会 注】

本文中の漢点字を8点で表すと以下の通り。また、「者」の漢点字は正しくは⠠⠠⠠⠠⠠⠠です。  
木⠠⠠ 子⠠⠠ 心⠠⠠ 穴⠠⠠⠠⠠ 工⠠⠠⠠ 空⠠⠠⠠⠠ 覚⠠⠠⠠⠠⠠⠠ 榮⠠⠠⠠⠠⠠⠠ 学⠠⠠⠠⠠⠠⠠ 者⠠⠠⠠⠠⠠⠠ 都⠠⠠⠠⠠⠠⠠

『点字毎日活字版』99年1月28日号より

「論壇」 「漢点字への素朴な疑問」を読んで

横浜漢点字羽化の会 代表 岡田 健嗣

昨年12月24日号に春日満治氏の「漢点字への素朴な疑問」が載った。10月29日号の拙文「点字の漢字は漢点字」への反論である。しかしながら、そこには数多くの誤認が見受けられる。本論はその一々を取り上げる紙幅を持たないが、漢点字を考案された川上先生は、ブライユのひそみにならつて点の符号を組み合わせて、この「漢点字」を作られたことを改めて強調したい。

漢字の3要素は、「形・音・義」だ。先生は、これらを点字の符号に実現しようと苦心され8点を採用された。

「形」は画や部首など漢字の構成だ。漢点字では、これを点の符号に当てはめた。上の二つの点を漢字符号とし、例えば3、6の点は1マスでは「学」を、部首としては「つめかんむり」を表し、1、3の点は1マスでは「人」を、部首としては「にんべん」を表す。

「音」は「読み」だ。同じ「ジ」という漢字でも「寺」「持つ」「時」のように部首が音符号となつて

読みを決める。

「義」は、その漢字が持つ意味だ。例えば「はかる」という訓の「計画の計」と「謀議の謀」は、音が異なるばかりではない。前者は数量を「はかる」ことを、後者は「はかりごとをする」ことを意味する。すなわち漢字は、それ自身が意味を持つて語としての働きもするのだ。この三つが点字に実現されて、初めて点字の「漢字」と言える。氏の言われるように音と訓さえ分かれば、漢字はOKとはいかない。

文字の習得は、まず「記憶」から始まる。その後「興味」を持つて学習するのだ。これは晴眼者、視覚障害者を問わない。いかに「興味深い」学習ができるかが問題なのだ。氏が「読めない」と言われる漢点字を、多くの人が習得し読んでいる。制限されていた「読書」の機会が大きく開かれたのだ。古典も現代詩歌もすでに鑑賞されている。漢方の学習も大きく様変わりした。本会は、このように読者の希望を募つて漢点字の資料を製作している。

再度提案する。漢点字と6点漢字の使用者と晴眼者で、「視覚障害者と読み」を巡る検討の場を設けてはどうか。大変有意義なものになるのではないだろうか。



## 漢字に関する春日、岡田両氏の論争を読んで

鳥取県 野島 静（元鳥盲理療科教諭）

今年には漢点字が世に問われてからまる三〇年になる。それなのに、いまだにこのような論争に決着がつけられていないのは、一重に日本盲教育界の怠慢といわざるをえない。

春日、岡田両氏ともそれぞれに言い分があり、その主張には一長一短がうかがえる。しかし、その思いは一つ。要するに、視力障害者（児）も普通児と同じレベルで漢字教育を受ける権利がある。その漢字教育の手段として、点字による漢字を導入すべきであると言っているのである。

その思いは私たち門外漢にも良く分かる。

もはやユーザー同士の論争の時期ではない。岡田氏が二度にわたって提案されているように、一日も早く漢点字と6点漢字のどちらを採用すべきなのかを、検討する場を設けるべきだと思ふ。

その音頭取りは、「日本点字委員会」あるいは、「盲学校長会」ないし、「日本盲教育研究会」のしかるべき機関、例えば国語部会等が中心となつてこれを取り上げるべきだと思ふ。

## Where · Who · Braille

本誌のフロッピーディスク版及びテープ版の読者であられます、木村多恵子様より本誌のご感想を頂戴いたしましたので、ここに掲載します。ありがとうございます。これからも、多くの皆様からのお便りをお待ちしております。お便りは、テープ録音・フロッピーへのテキストデータ入力・FAX・お手紙等、どれでも結構です。

「うか」を楽しみにさせていただいております。

とくに伊藤邦博先生の熱心な教育の広場からのご報告は胸を打ちます。生徒一人ひとりへの心配りが行き届いておられますね。子供さんたちが「考える」力を持っているのに驚いています。私などより遙かにきちんと人の心の中まで読み取ろうとしているのに胸が熱くなります。

「となりのシロー君」もこれまた力作ですね。私は、つい読みっぱなし、聞きっぱなしにしていますが、これをきちんと頭に入れたらいいと思つています。



私が漢点字を学べたのは、やはり川上泰一先生が通信教育という形をとってくださったからだと思います。どこか一定の場所へ行かなければ習えないのだとすると困難が生じたと思います。通信教育というやり方では個人の「やる気」がはっきり出ますね。その点私は「ノロマ」なものですから、人様の何倍もの日数がかかりました。小学一年生のように声に出して読むと「千鳥」を「せんとり」と読み上げてから気付いて笑いながら「あつ、ちどりだ」。「魚河岸」が出てくると「え？ さかな・かわ・きし？ なにこれ？」「なあーんだ、うおがしかア！」。

それでも読むのは何とか前後の文章で読めるのですが、相変らず書くのは難かしいです。「学校のぶんかさいのさいは祭？ 文化祭？ 催？」なんて聞いたりします。それに不思議なことに一度書いたものをピンディスプレイで読み直すと間違いに気付くこともあるのが面白いことです。川上先生がいつも「読んで読んで、忘れて、思い出して読んで、書いて、書いて、確認して書いて、そしてまた忘れて読んで書いているうちにいつかきつと自分のものになる。」と言っておられました。これはほんとうだと思えます。何度も同じ字を使いなすことが一番文字を覚えられるのだと思いま

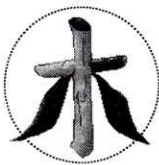
す。論より証拠、自分の名は忘れないし、「私」「明日」「感謝」などよく使う字は覚えられたのですから！

それにしても幼児期から普通の小学生のように漢点字で学んでいたら、ずっと楽だったろうと思ひ、この点はとても残念です。

統合教育で学校へ行っている人は点字教科書をテキストファイルで作ってから、そのまま漢点字にプリントアウトしていただいていたら、どんなによかったかと思ひますし、今からでも出来ることなのですから、なんとかかそのことを考えていただきたいと思ひます。漢字を知っている事で、少しはギャップを埋めることができるのではないかと思います。

「うか11号」のお話のようにこれも全国の統合教育を支援しておられるボランティアの皆様との協力と連体とで何とかいい方法ができたら、と思ひます。聴覚障害者を支援する人たちとの協力もとても大切だと思ひます。それに視覚、聴覚の二重障害者には特にこの漢点字の優秀さをお知らせしたいものです。

どうぞ皆様のご協力を得て、盲人自身もつと学ぶ心を持つてくださるよう願わずにはいられません。



木村 多恵子





**田 (田)** 四角く区切った耕地を象った象形文字。「田」は、作物を作る意からものを作る、稲を刈ることから狩猟をする意を持つようになった。また耕作地が広がる様から、平らな広い地の意を含む。我が国では「水田」を意味し、稲作と深く関係した字。他の耕作地は「畑 (畑)」(はたけ)を用いる。

また現在では「油 (油田)」、「炭 (炭田)」、「粟 (粟田)」など、ものを生産したり、収穫したりする場の意にも用いられる。

音は「でん」、訓は「た」。漢点字では〈田〉と1マス漢字。

「田」を含む字は多いが、この「田」に由来するものばかりでなく、たとえば「細 (細)」(ほそい)、「思 (思)」(おもう)の「田」は頭蓋骨とその縫合線を象ったものであり、「胃 (胃)」(い)の「田」は、食べ物で膨らんだ胃袋の形である。「畑」は、焼き畑耕作に由来する字。

**上 (上)** 下敷きの上に物が載っている形の指事文字。

「下 (下)」と逆の形。

音は「じょう」、訓は「うえ、あがる、のぼる」など。

漢点字では「上 (上)、中 (中)、下 (下)」と1マス目に〈上〉を置いて一つのグループの文字と考えた。

**根 (根)** 「木 (木)」と「艮 (艮)」からなる形声文字。

音は「こん」、訓は「ね」、木がしっかり地面に根をはっている意。隣の「艮」の原字は、「目」と「匕」の会意文字。目の玉をナイフでえぐった跡の穴のこと。眼球が眼窩にしっかり収まった形を表わす。

漢点字では偏の「木 (木)」と隣の「艮 (艮)」で〈根〉。

他に「艮」を旁とする字は、「眼 (眼)」、「銀 (銀)」など。

**雲 (雲)** 「雨冠 (雨冠)」と「云 (云)」からなる形声文字。

音は「うん」、訓は「くも」。水蒸気が立ち上り、もやもやとした状態にたち込める様の意。音符の「云」が「雲」の原字で、やはり水蒸気のこもることを表わし、また、もぐもぐと口ごもることをも表わす会意文字。漢点字では「雨冠」を〈雨冠〉、「云」を〈云〉で表わし、〈雲〉とした。

「云」を含む字には「耘 (耘)」、「会 (会)」、「芸 (芸)」、「伝 (伝)」などは、別字の略体。

「春寒し」(はるさむし)は早春に寒さのもどること。「春寒」(しゅんかん)とも言う。田植えにはまだ間がある。澄んだ空。

鏡餅（かがみもち）据えても暗き納戸神（なんどがみ）

下村 ひろし

作者は長崎の俳人です。納戸神とは昔キリシタンが禁制だったころ、ひそかに納戸の奥に隠して置いた神（キリスト）のことで、いまでも、かくれキリシタンの子孫のあいだではお正月にはこのような習慣が残っているのです。鏡餅を納戸神に供えるキリシタンの敬虔な気持ちが詠みとれます。（朔）

木の葉ふりやまずいそぐないそぐなよ

加藤 楸 邨（しゅうそん）

楸邨は人間の内面を詠んで「人間探求派」と称せられた。平成5年没。  
これは作者の病中の作。病床から外を眺めると盛んに木の葉が散っている。それを見て、あせるな、いらいらするなどじぶんに言いきかせるつぶやきである。そして、しきりに散る庭の木々にも言いきかせているのだ。口語調で言いかける下五（しもご）にユーモアがあり、しめっばさがない。（朔）

### 編集後記

九九年最初の「うか」です。本年もよろしくお願い申し上げます。本号では、いつにも増して多くの皆様よりご寄稿いただきました。深く御礼申し上げます。

6点漢字か漢点字かの議論が続いております。どのような形で関わっていけるのかわかりませんが、私個人としても深く考えていくことが出来ればと思っています。本会も一歩一歩、少しずつではありますが今年もまた前進していきたいと思っております。今後ともご支援・ご協力賜りますようお願い申し上げます。

### 【連絡先】

電話 03・3613・3160

代表 岡田 健嗣（八木沢療院内）

FAX 045・261・1723

宗助（むねすけ） 悦子

次回発行は四月十五日、新しい漢点字訳書紹介です

TEL・FAX 045（261）1723

宗助 悦子

\*本誌（活字版・テープ版・ディスク版）の無断転載はかたくお断り致します。